琉球大学学術リポジトリ

新聞：『東京日々新聞』

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2018-04-16 キーワード (Ja): 全面広告 「進歩の跡歴然たる臺灣の糖業界」　台灣製糖株式會社などの写真も掲載。青色鉛筆で線のひかれた箇所あり。 資料形態：一面全部／大型 56cm×42cm キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/38308

矢内原忠雄文庫

史　料　名	昭和2年6月17日『東京日々新聞』全面広告 進歩の跡歴然たる臺灣の糖業界
封筒番号	287
原文所所蔵者	琉球大学附属図書館
撮影年月日	平成 17 年 11 月 16 日
撮　影　者	富士写真フイルム　株式会社
備　　考	

矢内原忠雄文庫

封筒番号： 287

史料名	昭和2年6月17日『東京日々新聞』全面広告 進歩の跡歴然たる臺灣の糖業界
資料形態	一面全部／大型
枚　数	1
頁　数	1
縦（cm）	56
横（cm）	42
厚さ(cm)	
書誌的事項	台湾 台灣製糖株式會社などの写真も掲載。青色鉛筆で線のひかれた箇所あり。 今泉分類記号： P

琉球大学附属図書館

進歩の跡歴然たる
臺灣の糖業界
前途益々望み嘱さる

台灣の糖業は清國時代に於ける製糖の移植と共に傳はり西暦一六二四年頃人口密度の高い南部地方に於て始まれたと言はれる。爾来二百三十三年間、砂糖は唯一の輸出品として歓迎されて来たが、明治三十年頃に於ては僅かに一千万斤を輸出するに過ぎなかつた。然るに當時の糖業界は未だ旧式の方法に依り、その製糖高は僅かに一千万斤に過ぎなかつたものであるが、併し創業時の苦心は実に並大抵のものでは

櫓を經て南宮へ

天龍峡を下りて（二）

弓館芳夫

櫓をすゝ／せまり、暴も狭い瀬を下る。とばしとび越す得られるわけだ。水流激しくて右へ突き左にあたり、舟は矢の如くはしつて始めの方を過ぎ、後の如く鋭な立つ眼前峰の鬱蒼地に著る。

鷲ヶ巣岩（今の部男の巣）この地に鷲が巣ひて、近頃鷲絶を青いてから、天下にその名が知られるに至り、後間約十五年目下部鷲巣が仕近の十時を選び、一々岩にこれをさゝげ付けた。眼を凝して望れば紅鷲、鵬々、地鷹鷲、鷲鷹などといふ、猛禽鷲類の姿は見ない。やうな天字がほり付けてあるのがわかる。

ちなみに、せめなは下流三里の南宮まで下り給へとのすゝめに、家を捨てて、大島の、熊野峰の裏へ移る。熊野峰の裏下、河水流れを上に、ほとんど、つて、紫雲の、河水流れを上に、ほとんど、つて、紫雲の、河水流れを上に、ほとんど、つて、紫雲の